

6月から9月にかけてのインドシナ半島の多雨について

1. 降水の状況

インドシナ半島では、夏のモンスーンによる雨季にあたる6月から9月にかけて、平年より雨の多い状況が続き、チャオプラヤ川やメコン川の流域では洪水による大きな被害が報道されている。6月から9月までの4か月降水量は、タイ北部のチェンマイで921mm（平年比134%）、タイの首都バンコクで1251mm（同140%）、ラオスの首都ビエンチャンで1641mm（同144%）になるなど、インドシナ半島のほとんどの地点で平年の約1.2倍から1.8倍の多雨となった（図1中央）。主な地点の月降水量の経過（図1）や毎月の降水量平年比の分布（図2）に見られるように、この多雨をもたらした降雨は、上記の河川流域全体に、雨季の期間を通して、平年よりも多く降り続いたというのが特徴である。

また、その後10月上旬にも、チャオプラヤ川流域の広い範囲で100～200mm程度の降水量が観測されており、多雨の状態が続いている。

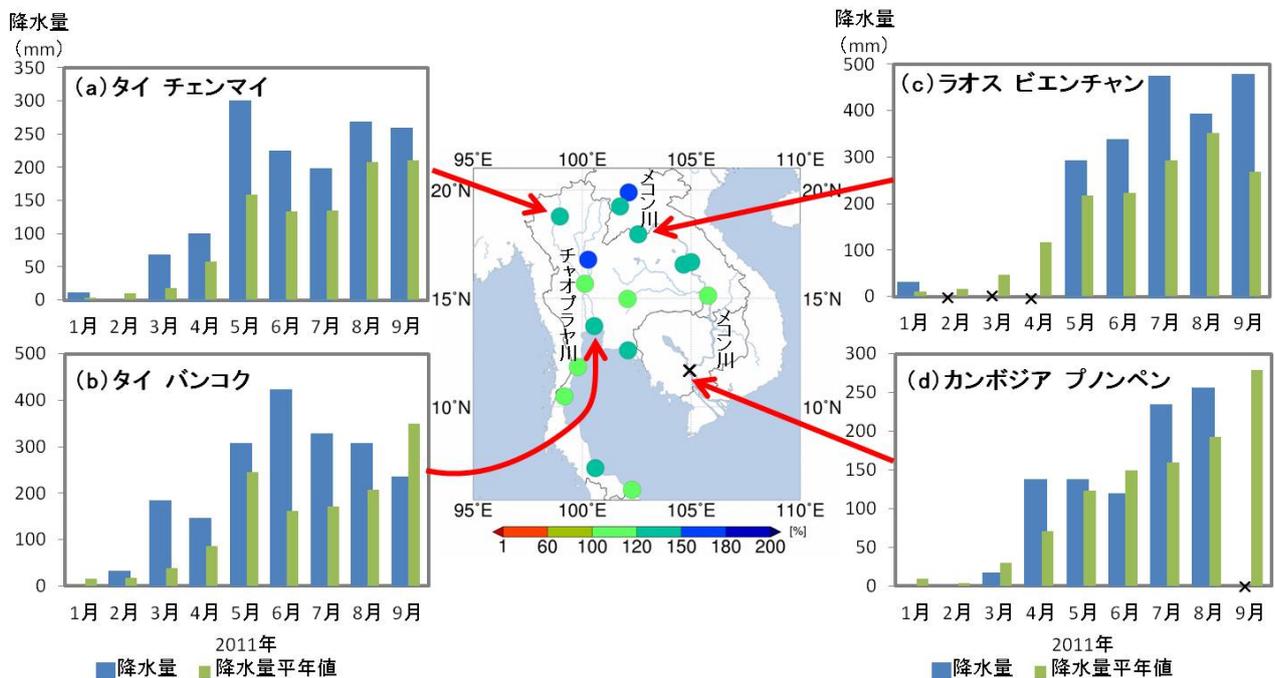


図1 2011年6～9月の4か月降水量平年比の分布と主な地点の月降水量の経過
平年値は1981～2010年の平均。分布図の×はプノンペンの位置を、経過図の×はデータの未入電を示す。

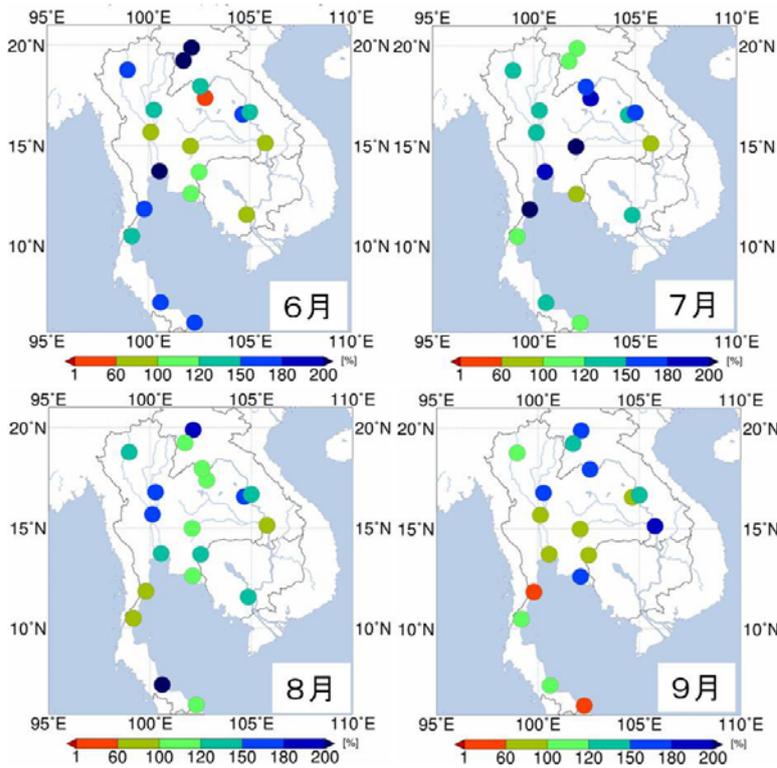


図2 2011年6月から9月の月降水量平年比の分布
平年値は1981～2010年の平均。

2. 夏のアジアモンスーンの活動について

6月から9月の4か月平均した対流活動（積雲活動）は、南アジアから東南アジアにかけての北緯10度から北緯20度の帯状の領域で平年より活発となっており（図3）、インドシナ半島の6月から9月にかけての多雨は、平年よりも活発な夏のアジアモンスーンによってもたらされたと考えられる。

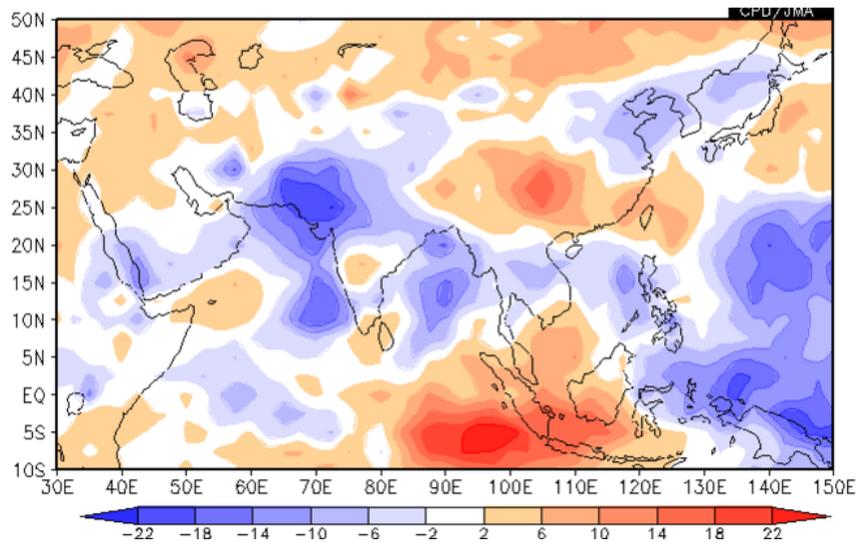


図3 2011年6～9月で4か月平均した対流活動の様子
外向き長波放射量(OLR)平年偏差の分布（単位 W/m^2 ）。OLRの値が小さい領域は、対流活動が活発な場所を示しており、上図では寒色系で表されている。平年値は1981～2010年の平均。

【本件に関する問い合わせ先】

気象庁地球環境・海洋部気候情報課 03-3212-8341（内3157）